

大学番号：私立296

[令和2年度設置]

注3

計画の区分：大学の設置

注1

認可

高知学園大学

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人高知学園
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 事務局図書課

職名・氏名 ジムキョクジチョウ モリハラセイジ
事務局次長・森原誠二

電話番号 088-840-1121

（夜間） 088-840-1121

F A X 088-840-1231

e-mail junbi@kochi-gc.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

健康科学部

<管理栄養学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. 既設大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	12
6. 附帯事項等に対する履行状況等	22
7. その他全般的事項	24

<臨床検査学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	29
2. 授業科目の概要	33
3. 施設・設備の整備状況、経費	38
4. 既設大学等の状況	39
5. 教員組織の状況	40
6. 附帯事項等に対する履行状況等	50
7. その他全般的事項	52

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人高知学園

(2) 大学名

高知学園大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒780-0955
高知県高知市旭天神町292-26

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(キラ マサヒト) 吉良 正人 (平成26年8月)		
学長	(チカモリ ケンスケ) 近森 憲助 (令和2年4月)		
健康科学部 学部長	(チカモリ ケンスケ) 近森 憲助 (令和2年4月)		
管理栄養学 学科長	(ワタナベ ケイコ) 渡邊 慶子 (令和2年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)
令和2年度に報告する内容 → (2)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
健康科学部 管理栄養学科 学士（栄養学）	家政関係	4年	70人	— 年次人	280人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	—人 (—) [—]	—人 (—) [—]	—人 (—) [—]	—人 (—) [—]	—人 (—) [—]	—人 (—) [—]	—人 (—) [—]	—人 (—) [—]	70人 (—) [—]	0人 (—) [—]	0.77 倍	— 倍	
志願者数	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	77 [—]	— [—]			
受験者数	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	74 [—]	— [—]			
合格者数	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	73 [—]	— [—]			
B 入学者数	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	54 [—]	— [—]			
入学定員超過率 B/A	—		—		—		—		0.77				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和2年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	54 [-] (-)	0 [-] (-)	
2年次	/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
3年次			/		/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
4年次	/						/		/		- [-] (-)
計			- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)					- [-] (-)

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
平成29年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
平成30年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	54 人	0 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{54} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
家庭科専門科目	家庭経営学（家庭経済学を含む）	1後	2								1
	家族関係学	2前	2								1
	被服学	1後	2		1						
	被服製作実習	2前	1		1						
	住居学（製図を含む）	2前	2								1
	保育学	2前	2								1
	家庭看護学	1後	2								1
	家庭電気・家庭機械	2後	2								1
	家庭情報処理	2後	1								1
	家庭科教育法Ⅰ	1前	4			1					
	家庭科教育法Ⅱ	2通	4			1					
小計（11科目）	—	2	22	0	1	0	0	0	0	0	7
栄養教諭専門科目	学校栄養教育論Ⅰ	1後		2							1
	学校栄養教育論Ⅱ	2前		2							1
	小計（2科目）	—	0	4	0	0	1	0	0	0	1
教職専門科目	教育原理	1前		2							1
	教職及び教育の制度・経営論	1前		2							1
	教育心理学	2後		2		1					
	発達心理学	2後		2		1					
	特別支援教育入門	3後		1							3
	教育課程総論	1後		2		1					1
	道德教育の指導法	2前		2		1					
	総合的な学習の時間の指導法	2後		1							2
	特別活動の指導法	2後		1							1
	教育の方法及び技術	2前		1							1
	生徒指導の理論と方法	1後		2		1					
	教育相談	2後		2							1
	進路指導及びキャリア教育の理論と方法	2後		2							1
	教育実習Ⅰ	3前		2			1				
	教育実習Ⅱ	4前		2			1				
	教育実習事前事後指導	3前		1			1				
	教職実践演習（中・高 家庭科）	4後		2			1				
栄養教育実習	3前		1		1					1	
栄養教育実習事前事後指導	3前		1		1					1	
教職実践演習（栄養教諭）	4後		2							2	
小計（20科目）	—	0	33		2	0	1	0	0	0	12
合計（137科目）	—	106	109	0	11	4	2	0	0	0	69
卒業要件及び履修方法											
卒業要件単位 124単位 ①教養・基礎科目は、13科目17単位が必修、選択科目より17単位以上、合計34単位以上を修得する。 ②専門導入科目は、必修5科目5単位を修得する。 ③専門基礎科目は、必修24科目38単位を修得する。 ④専門科目は、必修29科目44単位に加え、「臨地実習Ⅳ（臨床栄養）」または「臨地実習Ⅴ（公衆衛生学）」の内いずれかを選択必修とし、合計45単位を修得する。 ⑤家庭科専門科目は、必修1科目2単位を修得する。 ⑥卒業要件単位数は合計124単位以上を修得する。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
家庭科専門科目	家庭経営学（家庭経済学を含む）	1後	2								1
	家族関係学	2前	2								1
	被服学	1後	2		1						
	被服製作実習	2前	1		1						
	住居学（製図を含む）	2前	2								1
	保育学	2前	2								1
	家庭看護学	1後	2								1
	家庭電気・家庭機械	2後	2								1
	家庭情報処理	2後	1								1
	家庭科教育法Ⅰ	1前	4			1					
	家庭科教育法Ⅱ	2通	4			1					
小計（11科目）	—	2	22	0	1	0	0	0	0	0	7
栄養教諭専門科目	学校栄養教育論Ⅰ	1後		2							1
	学校栄養教育論Ⅱ	2前		2							1
	小計（2科目）	—	0	4	0	0	1	0	0	0	1
教職専門科目	教育原理	1前		2							1
	教職及び教育の制度・経営論	1前		2							1
	教育心理学	2後		2		1					
	発達心理学	2後		2		1					
	特別支援教育入門	3後		1							3
	教育課程総論	1後		2		1					2
	道德教育の指導法	2前		2		1					
	総合的な学習の時間の指導法	2後		1							1
	特別活動の指導法	2後		1							1
	教育の方法及び技術	2前		1							3
	生徒指導の理論と方法	1後		2		1					
	教育相談	2後		2							1
	進路指導及びキャリア教育の理論と方法	2後		2							2
	教育実習Ⅰ	3前		2				1			
	教育実習Ⅱ	4前		2				1			
	教育実習事前事後指導	3前		1				1			
	教職実践演習（中・高 家庭科）	4後		2				1			
栄養教育実習	3前		1		1					1	
栄養教育実習事前事後指導	3前		1		1					1	
教職実践演習（栄養教諭）	4後		2							2	
小計（20科目）	—	0	33		2	0	1	0	0	0	15
合計（137科目）	—	106	109	0	11	4	2	0	0	0	71
卒業要件及び履修方法											
卒業要件単位 124単位 ①教養・基礎科目は、13科目17単位が必修、選択科目より17単位以上、合計34単位以上を修得する。 ②専門導入科目は、必修5科目5単位を修得する。 ③専門基礎科目は、必修24科目38単位を修得する。 ④専門科目は、必修29科目44単位に加え、「臨地実習Ⅳ（臨床栄養）」または「臨地実習Ⅴ（公衆衛生学）」の内いずれかを選択必修とし、合計45単位を修得する。 ⑤家庭科専門科目は、必修1科目2単位を修得する。 ⑥卒業要件単位数は合計124単位以上を修得する。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

管理栄養士養成校審査の結果、応用栄養学Ⅱ（母性・成長期）を2年前期から2年後期に変更。 管理栄養士養成校審査の結果、応用栄養学Ⅲ（成人・高齢期）を2年後期から3年前期に変更。 管理栄養士養成校審査の結果、臨床栄養学Ⅰ（総論）を2年後期から2年前期に変更。 管理栄養士養成校審査の結果、臨床栄養学Ⅱ（管理・評価）を3年前期から2年後期に変更。 教職課程審査の結果、「教育課程総論」の専任教員等の配置を「兼任1」から「兼任2」に変更。 教育課程審査の結果、「総合的な学習の時間の指導法」の専任教員等の配置を「兼任2」から「兼任1」に変更。 教育課程審査の結果、「教育の方法及び技術」の専任教員等の配置を「兼任1」から「兼任3」に変更。 教育課程審査の結果、「進路指導及びキャリア教育の理論と方法」の専任教員等の配置を「兼任1」から「兼任2」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
72 科目	65 科目	0 科目	137 科目	72 科目 [0]	65 科目 [0]	0 科目 [0]	137 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目 (該当なし)

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目 (該当なし)

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

(該当なし)

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{137} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	校舎敷地・その他：高知学園短期大学（必要面積4,600㎡）と共有 運動場用地：高知リハビリテーション専門職大学及び高知学園短期大学と共有		
	校舎敷地	0 ㎡	17,841.48 ㎡	0 ㎡	17,841.48 ㎡			
	運動場用地	0 ㎡	25,297.30 ㎡	0 ㎡	25,297.30 ㎡			
	小 計	0 ㎡	43,138.78 ㎡	0 ㎡	43,138.78 ㎡			
	そ の 他	0 ㎡	6,169.97 ㎡	0 ㎡	6,169.97 ㎡			
	合 計	0 ㎡	49,308.75 ㎡	0 ㎡	49,308.75 ㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	高知学園短期大学（必要面積5,500㎡）と共有			
	4,406.42 ㎡ (4,406.42 ㎡)	8,734.09 ㎡ (8,734.09 ㎡)	4,207.75 ㎡ (4,207.75 ㎡)	17,348.26 ㎡ (17,348.26 ㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	(講義室、情報処理学習施設は高知学園短期大学と共有) (補助職員 0 人) (補助職員 0 人)		
	28 室	13 室	21 室	2 室 (補助職員 0 人)	0 室 (補助職員 0 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数					
	健康科学部 管理栄養学科		18 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	
		[うち外国書]	[うち外国書]					[うち外国書]
	健康科学部 管理栄養学科	冊	種	点	点	点		
	計	冊	種	点	点	点		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数				
	974.00 ㎡		134	117630 冊				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要					
	3,543.00 ㎡		テニスコート（3面） 1,815.00 ㎡					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	252千円	252千円	図書購入費	4,500千円	1,150千円	1,150千円
		共同研究費等	80千円	80千円	設備購入費	52,000千円	30,000千円	0千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要		補助金収入、資産運用収入、手数料収入、雑収入 等					

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	高知学園大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
健康科学部											
管理栄養学科	4	70	-	280	学士(栄養学)	0.77	0.77	-	令和2	高知県高知市旭天神町292-26	
臨床検査学科	4	60	-	240	学士(臨床検査学)	0.98	0.98	-	令和2	同上	
大学全体	-	130	-	520	-	0.87	0.87	-	令和2	-	

大学の名称	高知リハビリテーション専門職大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
リハビリテーション学部											
リハビリテーション学科	4	150	-	600	-	0.83	0.79	-	平成31	高知県土佐市高岡町乙1139-3	
理学療法専攻	4	70	-	280	理学療法学士(専門職)	0.92	0.90	-	平成31	同上	
作業療法専攻	4	40	-	160	作業療法学士(専門職)	0.76	0.67	-	平成31	同上	
言語聴覚専攻	4	40	-	160	言語聴覚学士(専門職)	0.75	0.72	-	平成31	同上	
大学全体	4	150	-	600	-	0.83	0.79	-	-	-	

大学の名称	高知学園短期大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
生活科学学科	2	-	-	80	短期大学士(生活科学)	0.58	-	-	平成17	高知県高知市旭天神町292-26	令和2年4月募集停止
幼児保育学科	2	80	-	160	短期大学士(幼児保育学)	0.98	1.00	-	平成17	同上	
医療衛生学科											
医療検査専攻	3	-	-	80	短期大学士(臨床検査学)	1.11	-	-	平成18	同上	令和2年4月募集停止
歯科衛生専攻	3	-	-	80	短期大学士(歯科衛生学)	0.81	-	-	平成18	同上	令和2年4月募集停止
歯科衛生学科	3	40	-	120	短期大学士(歯科衛生学)	0.98	0.98	-	令和2	同上	令和2年4月学科名称変更
看護学科	3	60	-	180	短期大学士(看護学)	1.12	1.12	-	平成20	同上	
大学全体	-	180	-	700	-	0.99	1.03	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<健康科学部 管理栄養学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	安房田 司郎 (72) <令和2年4月> 博士(医学)	専	教授	安房田 司郎 (73) <令和2年4月> 博士(医学)
		管理栄養士導入教育論※ 健康栄養学 地域医療概論※ 基礎栄養学 基礎栄養学実験 管理栄養士総合演習※ 卒業研究			管理栄養士導入教育論※ 健康栄養学 地域医療概論※ 基礎栄養学 基礎栄養学実験 管理栄養士総合演習※ 卒業研究
専	教授	川口 順子 (71) <令和2年4月> 博士(芸術工学)	専	教授	川口 順子 (71) <令和2年4月> 博士(芸術工学)
		被服学 被服製作実習 家庭科教育法Ⅰ 家庭科教育法Ⅱ			被服学 被服製作実習 家庭科教育法Ⅰ 家庭科教育法Ⅱ
専	教授	近森 憲助 (69) <令和2年4月> 医学博士	専	教授	近森 憲助 (69) <令和2年4月> 医学博士
		国際文化人間論			国際文化人間論
専	教授	田邊 重任 (69) <令和2年4月> 教育学士	専	教授	田邊 重任 (69) <令和2年4月> 教育学士
		教育課程総論※ 道徳教育の指導法 栄養教育実習 栄養教育実習事前事後指導			教育課程総論※ 道徳教育の指導法 栄養教育実習 栄養教育実習事前事後指導
専	教授	田口 尚弘 (67) <令和2年4月> 理学博士	専	教授	田口 尚弘 (67) <令和2年4月> 理学博士
		人体の構造学 人体の機能学 人体の構造学実習 管理栄養士総合演習※ 卒業研究			人体の構造学 人体の機能学 人体の構造学実習 管理栄養士総合演習※ 卒業研究
専	教授	渡邊 慶子 (64) <令和2年4月> 博士(生活科学)	専	教授	渡邊 慶子 (64) <令和2年4月> 博士(生活科学)
		管理栄養士導入教育論※ チーム医療概論※ 地域医療概論※ 臨床栄養学Ⅲ(栄養食事療法) 臨床栄養学実習Ⅰ(基礎) 臨床栄養学実習Ⅱ(応用) 口腔ケアと栄養管理※ がんと栄養療法※ 臨床実習事前・事後指導※ 管理栄養士総合演習※ 臨床実習Ⅲ(臨床栄養学) 臨床実習Ⅳ(臨床栄養学) 卒業研究			管理栄養士導入教育論※ チーム医療概論※ 地域医療概論※ 臨床栄養学Ⅲ(栄養食事療法) 臨床栄養学実習Ⅰ(基礎) 臨床栄養学実習Ⅱ(応用) 口腔ケアと栄養管理※ がんと栄養療法※ 臨床実習事前・事後指導※ 管理栄養士総合演習※ 臨床実習Ⅲ(臨床栄養学) 臨床実習Ⅳ(臨床栄養学) 卒業研究
専	教授	太田 直也 (60) <令和2年4月> 文学修士	専	教授	太田 直也 (60) <令和2年4月> 文学修士
		英語文章表現 英語読解 英語プレゼンテーション			英語文章表現 英語読解 英語プレゼンテーション
専	教授	竹市 仁美 (52) <令和3年4月> 博士(生活科学)	専	教授	竹市 仁美 (52) <令和3年4月> 博士(生活科学)
		公衆栄養学Ⅰ(総論) 公衆栄養学Ⅱ(各論) 地域公衆栄養学実習 臨床実習事前・事後指導※ 管理栄養士総合演習※ 臨床実習Ⅴ(公衆栄養学) 卒業研究			公衆栄養学Ⅰ(総論) 公衆栄養学Ⅱ(各論) 地域公衆栄養学実習 臨床実習事前・事後指導※ 管理栄養士総合演習※ 臨床実習Ⅴ(公衆栄養学) 卒業研究
専	教授	吉村 斉 (50) <令和2年4月> 博士(教育学)	専	教授	吉村 斉 (50) <令和2年4月> 博士(教育学)
		心理学 教育心理学 発達心理学 生徒指導の理論と方法			心理学 教育心理学 発達心理学 生徒指導の理論と方法
専	教授	宮本 恵美 (48) <令和2年4月> 博士(農学)	専	教授	宮本 恵美 (49) <令和2年4月> 博士(農学)
		食品学Ⅰ(総論) 食品学Ⅱ(各論) 食品学実験 管理栄養士総合演習※ 卒業研究			食品学Ⅰ(総論) 食品学Ⅱ(各論) 食品学実験 管理栄養士総合演習※ 卒業研究
専	教授	松浦 喜美夫 (71) <令和2年4月> 医学博士	専	教授	松浦 喜美夫 (71) <令和2年4月> 医学博士
		チーム医療概論※ 地域医療概論※ 疾病論Ⅰ(総論) 疾病論Ⅱ(各論) 管理栄養士総合演習※ 卒業研究			チーム医療概論※ 地域医療概論※ 疾病論Ⅰ(総論) 疾病論Ⅱ(各論) 管理栄養士総合演習※ 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	荒木 裕子 (52) <令和3年4月> 博士(健康科学)	専	准教授	荒木 裕子 (51) <令和2年4月> 博士(健康科学)
		栄養教育論Ⅰ(基礎) 栄養教育論Ⅱ(応用) 栄養教育論Ⅲ(実践) 栄養教育論実習 管理栄養士総合演習※ 卒業研究			栄養教育論Ⅰ(基礎) 栄養教育論Ⅱ(応用) 栄養教育論Ⅲ(実践) 栄養教育論実習 管理栄養士総合演習※ 卒業研究
専	准教授	古屋 美知 (49) <令和2年4月> 修士(生活科学)	専	准教授	古屋 美知 (50) <令和2年4月> 修士(生活科学)
		管理栄養士導入教育論※ 地域医療概論※ 応用栄養学Ⅰ(栄養管理) 応用栄養学Ⅱ(母性・成長期) 応用栄養学Ⅲ(成人・高齢期) 応用栄養学実習 管理栄養士総合演習※ 卒業研究			管理栄養士導入教育論※ 地域医療概論※ 応用栄養学Ⅰ(栄養管理) 応用栄養学Ⅱ(母性・成長期) 応用栄養学Ⅲ(成人・高齢期) 応用栄養学実習 管理栄養士総合演習※ 卒業研究
専	准教授	鈴木 寛之 (49) <令和2年4月> 博士(理学)	専	准教授	鈴木 寛之 (49) <令和2年4月> 博士(理学)
		基礎化学 有機化学 地域医療概論※ 生化学Ⅰ(機能) 生化学Ⅱ(代謝) 生化学実験 管理栄養士総合演習※ 卒業研究			基礎化学 有機化学 地域医療概論※ 生化学Ⅰ(機能) 生化学Ⅱ(代謝) 生化学実験 管理栄養士総合演習※ 卒業研究
専	准教授	中野 政之 (45) <令和2年4月> 博士(医学)	専	准教授	中野 政之 (46) <令和2年4月> 博士(医学)
		食品衛生学 食品衛生学実験			食品衛生学 食品衛生学実験
専	講師	日比野 るり子 (64) <令和4年4月> 家政学士	専	講師	日比野 るり子 (64) <令和4年4月> 家政学士
		教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習事前事後指導 教職実践演習(中・高 家庭科)			教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習事前事後指導 教職実践演習(中・高 家庭科)
専	講師	沼田 聡 (36) <令和3年4月> 博士(学術)	専	講師	沼田 聡 (36) <令和3年4月> 博士(学術)
		地域医療概論※ 給食経営管理論Ⅰ(総論) 給食経営管理論Ⅱ(各論) 給食経営管理実習Ⅰ(基礎) 給食経営管理実習Ⅱ(応用) 臨地実習事前・事後指導※ 管理栄養士総合演習※ 臨地実習Ⅰ(給食の運営) 臨地実習Ⅱ(給食経営管理論) 卒業研究			地域医療概論※ 給食経営管理論Ⅰ(総論) 給食経営管理論Ⅱ(各論) 給食経営管理実習Ⅰ(基礎) 給食経営管理実習Ⅱ(応用) 臨地実習事前・事後指導※ 管理栄養士総合演習※ 臨地実習Ⅰ(給食の運営) 臨地実習Ⅱ(給食経営管理論) 卒業研究
兼任	講師	村上 雅尚 (47) <令和2年4月> 博士(生命科学)	兼任	講師	村上 雅尚 (48) <令和2年4月> 博士(生命科学)
		生物学概論			生物学概論
兼任	講師	小野川 雅英 (51) <令和2年10月> 博士(医学)	兼任	講師	小野川 雅英 (51) <令和2年10月> 博士(医学)
		チーム医療概論※ 地域医療概論※ 救急救命法			チーム医療概論※ 地域医療概論※ 救急救命法
兼任	講師	森田 尚亨 (63) <令和2年10月> 修士(理学)	兼任	講師	森田 尚亨 (63) <令和2年10月> 修士(理学)
		チーム医療概論※ 地域医療概論※			チーム医療概論※ 地域医療概論※
兼任	講師	松崎 茂展 (67) <令和2年10月> 修士(理学)	兼任	講師	松崎 茂展 (67) <令和2年10月> 修士(理学)
		チーム医療概論※ 地域医療概論※			チーム医療概論※ 地域医療概論※
兼任	講師	山中 茂雄 (60) <令和2年10月> 博士(医学)	兼任	講師	山中 茂雄 (60) <令和2年10月> 博士(医学)
		チーム医療概論※			チーム医療概論※
兼任	講師	富永 麻理 (63) <令和5年4月> 医学博士	兼任	講師	富永 麻理 (63) <令和5年4月> 医学博士
		地域医療概論※			地域医療概論※
兼任	講師	中村 泰子 (51) <令和2年4月> 修士(医科学)	兼任	講師	中村 泰子 (51) <令和2年4月> 修士(医科学)
		地域医療概論※ 救急救命法			地域医療概論※ 救急救命法
兼任	講師	是永 正敬 (66) <令和3年4月> 医学博士	兼任	講師	是永 正敬 (66) <令和3年4月> 医学博士
		地域医療概論※ 公衆衛生Ⅰ(総論) 公衆衛生Ⅱ(各論) 公衆衛生学実習 管理栄養士総合演習※			地域医療概論※ 公衆衛生Ⅰ(総論) 公衆衛生Ⅱ(各論) 公衆衛生学実習 管理栄養士総合演習※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	高岡 榮二 (66) <令和5年4月> 修士(理学)	兼任	講師	高岡 榮二 (66) <令和5年4月> 修士(理学)
		地域医療概論※			地域医療概論※
兼任	講師	武市 和彦 (59) <令和5年4月> 農学士	兼任	講師	武市 和彦 (59) <令和5年4月> 農学士
		地域医療概論※			地域医療概論※
兼任	講師	高橋 功 (78) <令和4年4月> 医学博士	兼任	講師	高橋 功 (78) <令和4年4月> 医学博士
		生命倫理学			生命倫理学
兼任	講師	浜田 幸作 (71) <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	浜田 幸作 (71) <令和2年4月> 修士(教育学)
		平和と友愛論			平和と友愛論
兼任	講師	都築 房子 (71) <令和2年4月> 教育学士	兼任	講師	都築 房子 (71) <令和2年4月> 教育学士
		美術の世界			美術の世界
兼任	講師	遠山 茂樹 (51) <令和2年4月> 修士(社会学)	兼任	講師	遠山 茂樹 (51) <令和2年4月> 修士(社会学)
		社会学			社会学
兼任	講師	渡邊 富一 (64) <令和2年4月> 法学修士	兼任	講師	渡邊 富一 (64) <令和2年4月> 法学修士
		日本国憲法			日本国憲法
兼任	講師	岡村 奈緒美 (31) <令和2年10月> 修士(福祉社会学)	兼任	講師	岡村 奈緒美 (31) <令和2年10月> 修士(福祉社会学)
		社会福祉論 特別支援教育入門※			社会福祉論 特別支援教育入門※
兼任	講師	隅田 和稔 (65) <令和2年10月> 博士(学術)	兼任	講師	隅田 和稔 (65) <令和2年10月> 博士(学術)
		社会とメディア			社会とメディア
兼任	講師	生島 洋 (49) <令和2年10月> 修士(経営学)	兼任	講師	生島 洋 (49) <令和2年10月> 修士(経営学)
		経営学基礎			経営学基礎
兼任	講師	二宮 久美 (64) <令和2年4月> 修士(学術)	兼任	講師	二宮 久美 (64) <令和2年4月> 修士(学術)
		ヒューマンコミュニケーション キャリアデザインI(基礎)			ヒューマンコミュニケーション キャリアデザインI(基礎) 進路指導及びキャリア教育の理論と方法※
兼任	講師	岩崎 正春 (73) <令和2年4月> 理学博士	兼任	講師	岩崎 正春 (73) <令和2年4月> 理学博士
		物理学概論			物理学概論
兼任	講師	池 康晴 (63) <令和2年4月> 理学士			
		数学概論			
兼任	講師	島田 郁子 (55) <令和2年10月> 博士(生活科学)	兼任	講師	島田 郁子 (55) <令和2年10月> 博士(生活科学)
		災害と生活			災害と生活
兼任	講師	三谷 英子 (72) <令和2年4月> 専門学校	兼任	講師	三谷 英子 (72) <令和2年4月> 専門学校
		土佐の食文化			土佐の食文化
兼任	講師	戸田 浩 (63) <令和2年4月> 文学士	兼任	講師	戸田 浩 (63) <令和2年4月> 文学士
		日本語文章表現 日本語読解 栄養教育実習 栄養教育実習事前事後指導			日本語文章表現 日本語口頭表現 日本語読解 栄養教育実習 栄養教育実習事前事後指導
兼任	講師	松本 優典 (63) <令和2年4月> 教育心理学士			
		日本語口頭表現			

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	PAULA DIAN FABIAN (62) <令和2年10月> B.L.A(英国)	兼任	講師	PAULA DIAN FABIAN (62) <令和2年10月> B.L.A(英国)
		日常英会話 医学英語演習			日常英会話 医学英語演習
兼任	講師	前田 正也 (62) <令和2年10月> 法学士	兼任	講師	前田 正也 (62) <令和2年10月> 法学士
		中国語の基礎 中国語会話			中国語の基礎 中国語会話
兼任	講師	小島 貴子 (62) <令和3年10月> 修士(国際ビジネス)	兼任	講師	小島 貴子 (62) <令和3年10月> 修士(国際ビジネス)
		キャリアデザインⅡ(応用) 進路指導及びキャリア教育の理論と方法			キャリアデザインⅡ(応用) 進路指導及びキャリア教育の理論と方法※
兼任	講師	山本 英作 (53) <令和2年4月> 修士(地域研究)	兼任	講師	山本 英作 (53) <令和2年4月> 修士(地域研究)
		運動と健康 生涯スポーツ実技			運動と健康 生涯スポーツ実技
兼任	講師	矢野 智恵 (50) <令和2年10月> 修士(看護学)	兼任	講師	矢野 智恵 (50) <令和2年10月> 修士(看護学)
		チーム医療概論※			チーム医療概論※
兼任	講師	坂本 まゆみ (53) <令和2年10月> 博士(口腔保健福祉学)	兼任	講師	坂本 まゆみ (53) <令和2年10月> 博士(口腔保健福祉学)
		チーム医療概論※ 口腔ケアと栄養管理※			チーム医療概論※ 口腔ケアと栄養管理※
兼任	講師	宮崎 登美子 (47) <令和2年10月> 学士(社会学)	兼任	講師	宮崎 登美子 (47) <令和2年10月> 学士(社会学)
		チーム医療概論			チーム医療概論
兼任	講師	福井 康雄 (60) <令和2年10月> 医学博士	兼任	講師	福井 康雄 (60) <令和2年10月> 医学博士
		チーム医療概論※ 医療リスクマネジメント			チーム医療概論※ 医療リスクマネジメント
兼任	講師	竹崎 陽子 (40) <令和2年10月> 専門学校	兼任	講師	竹崎 陽子 (40) <令和2年10月> 専門学校
		チーム医療概論※			チーム医療概論※
兼任	講師	光岡 妙子 (49) <令和2年10月> 医学士	兼任	講師	光岡 妙子 (49) <令和2年10月> 医学士
		チーム医療概論※			チーム医療概論※
兼任	講師	森下 安子 (62) <令和4年4月> 看護学博士	兼任	講師	森下 安子 (62) <令和4年4月> 看護学博士
		地域医療概論※ 地域包括ケアシステム論			地域医療概論※ 地域包括ケアシステム論
兼任	講師	浅羽 宏一 (54) <令和5年4月> 博士(医学)	兼任	講師	浅羽 宏一 (54) <令和5年4月> 博士(医学)
		地域医療概論※			地域医療概論※
兼任	講師	林 和俊 (56) <令和3年4月> 医学博士	兼任	講師	林 和俊 (56) <令和3年4月> 医学博士
		医療リスクマネジメント※			医療リスクマネジメント※
兼任	講師	小野 憲昭 (59) <令和3年4月> 医学博士	兼任	講師	小野 憲昭 (59) <令和3年4月> 医学博士
		医療リスクマネジメント※			医療リスクマネジメント※
兼任	講師	市川 厚 (46) <令和3年10月> 博士(医学)	兼任	講師	市川 厚 (46) <令和3年10月> 博士(医学)
		人体の機能学実習			人体の機能学実習
兼任	講師	駒井 説夫 (66) <令和4年4月> 教育学修士	兼任	講師	駒井 説夫 (66) <令和4年4月> 教育学修士
		運動生理学 運動生理学実習 管理栄養士総合演習※			運動生理学 運動生理学実習 管理栄養士総合演習※
兼任	講師	松村 晃子 (62) <令和3年10月> 栄養学士	兼任	講師	松村 晃子 (62) <令和3年10月> 栄養学士
		臨床栄養学Ⅰ(総論) 臨床栄養学Ⅱ(管理・評価)			臨床栄養学Ⅰ(総論) 臨床栄養学Ⅱ(管理・評価)
兼任	講師	宮澤 靖 (56) <令和4年10月> 栄養学士	兼任	講師	宮澤 靖 (56) <令和4年10月> 栄養学士
		病棟栄養管理学			病棟栄養管理学

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	利光 久美子 (53) <令和4年10月> 学術博士	兼任	講師	利光 久美子 (53) <令和4年10月> 学術博士
		がんと栄養療法※			がんと栄養療法※
兼任	講師	井本 正人 (71) <令和2年10月> 経済学修士	兼任	講師	井本 正人 (71) <令和2年10月> 経済学修士
		家庭経営学(家庭経済学を含む)			家庭経営学(家庭経済学を含む)
兼任	講師	森田 美佐 (47) <令和3年4月> 博士(生活環境学)	兼任	講師	森田 美佐 (47) <令和3年4月> 博士(生活環境学)
		家族関係学			家族関係学
兼任	講師	西島 芳子 (76) <令和3年4月> 博士(学術)	兼任	講師	西島 芳子 (76) <令和3年4月> 博士(学術)
		住居学(製図を含む)			住居学(製図を含む)
兼任	講師	田村 由香 (60) <令和3年4月> 短期大学	兼任	講師	田村 由香 (60) <令和3年4月> 短期大学
		保育学			保育学
兼任	講師	池添 志乃 (55) <令和2年10月> 博士(看護学)	兼任	講師	池添 志乃 (55) <令和2年10月> 博士(看護学)
		家族看護学			家族看護学
兼任	講師	吉松 徹久 (67) <令和3年10月> 工学修士	兼任	講師	吉松 徹久 (67) <令和3年10月> 工学修士
		家庭電気・家庭機械			家庭電気・家庭機械
兼任	講師	松本 秀彦 (52) <令和4年10月> 修士(教育学)	兼任	講師	松本 秀彦 (52) <令和4年10月> 修士(教育学)
		特別支援教育入門※			特別支援教育入門※
兼任	講師	宮崎 大樹 (42) <令和2年10月> 学士(学校教育)			
		教育課程総論※ 総合的な学習の時間の指導法※ 特別活動の指導法			
兼任	講師	濱田 美晴 (51) <令和3年10月> 修士(理学)			
		教育の方法及び技術			
兼任	講師	中野 靖子 (63) <令和3年10月> 短期大学	兼任	講師	中野 靖子 (63) <令和3年10月> 短期大学
		教育相談 教職実践演習(栄養教諭)※			教育相談 教職実践演習(栄養教諭)※
兼任	講師	永島 正康 (60) <令和3年4月> Ph. D. in BusinessAdministration(仏国)	兼任	講師	永島 正康 (60) <令和3年4月> Ph. D. in BusinessAdministration(仏国)
		マーケティング論			マーケティング論
兼任	講師	三船 恒裕 (38) <令和2年10月> 博士(文学)	兼任	講師	三船 恒裕 (38) <令和2年10月> 博士(文学)
		統計学			統計学
兼任	講師	木下 泉 (38) <令和2年4月> 農学博士	兼任	講師	木下 泉 (38) <令和2年4月> 農学博士
		生活と環境			生活と環境
兼任	講師	宅間 一之 (85) <令和2年4月> 教育学士	兼任	講師	宅間 一之 (85) <令和2年4月> 教育学士
		土佐の歴史			土佐の歴史
兼任	講師	来栖 正博 (34) <令和2年4月> 修士(理学)	兼任	講師	来栖 正博 (34) <令和2年4月> 修士(理学)
		情報機器の活用と発信 情報機器とプレゼンテーション 情報倫理 家庭情報処理			情報機器の活用と発信 情報機器とプレゼンテーション 情報倫理 家庭情報処理
兼任	講師	津野 美保 (68) <令和2年4月> 修士(学術)	兼任	講師	津野 美保 (68) <令和2年4月> 修士(学術)
		健康科学			健康科学
兼任	講師	安岡 しずか (49) <令和5年4月> 修士(看護学)	兼任	講師	安岡 しずか (49) <令和5年4月> 修士(看護学)
		地域医療概論※			地域医療概論※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	吉尾 信子 (68) <令和4年10月> 博士(学術)	兼任	講師	吉尾 信子 (68) <令和4年10月> 博士(学術)
		食品加工学実習			食品加工学実習
兼任	講師	次田 一代 (57) <令和2年4月> 家政学修士	兼任	講師	次田 一代 (57) <令和2年4月> 家政学修士
		調理科学 管理栄養士総合演習※			調理科学 管理栄養士総合演習※
兼任	講師	彼末 富貴 (59) <令和2年4月> 家政学士	兼任	講師	彼末 富貴 (59) <令和2年4月> 家政学士
		調理学実習Ⅰ(基礎) 調理学実習Ⅱ(応用)			調理学実習Ⅰ(基礎) 調理学実習Ⅱ(応用)
兼任	講師	下元 智世 (66) <令和2年10月> 修士(学術)	兼任	講師	下元 智世 (66) <令和2年10月> 修士(学術)
		学校栄養教育論Ⅰ 学校栄養教育論Ⅱ 教職実践演習(栄養教諭)※			学校栄養教育論Ⅰ 学校栄養教育論Ⅱ 教職実践演習(栄養教諭)※
兼任	講師	中村 直人 (61) <令和2年4月> 教育学修士	兼任	講師	中村 直人 (61) <令和2年4月> 教育学修士
		教育原理			教育原理
兼任	講師	山下 文一 (61) <令和3年10月> 修士(学術)			
		総合的な学習の時間の指導法※			
兼任	講師	永野 隆史 (65) <令和2年4月> 教育学修士	兼任	講師	永野 隆史 (65) <令和2年4月> 教育学修士
		教職及び教育の制度・経営論			教職及び教育の制度・経営論
兼任	講師	今井 多衣子 (66) <令和4年10月> 文学修士	兼任	講師	今井 多衣子 (66) <令和4年10月> 文学修士
		特別支援教育入門※			特別支援教育入門※
			兼任	講師	古市 直樹 (33) <令和2年10月> 修士(教育学)
					教育課程総論※ 教育の方法及び技術※
			兼任	講師	福石 賢一 (50) <令和2年10月> 修士(教育学)
					教育課程総論※
			兼任	講師	濱田 久美子 (60) <令和3年10月> 修士(教育学)
					総合的な学習の時間の指導法
			兼任	講師	池田 誠喜 (54) <令和3年10月> 修士(学校教育学)
					特別活動の指導法
			兼任	講師	寺尾 康 (61) <令和2年4月> 理学士
					数学概論 教育の方法及び技術※
			兼任	講師	白川 貴子 (85) <令和3年4月> 家政学士
					教育の方法及び技術※

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に基づいて作成してください。
・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**置換時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
・ 各種の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください)。
・ 不要年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

・兼任講師が都合により辞退したため、「数学概論」は兼任講師を新たに配置し、「日本語口頭表現」は他の兼任講師の担当とした。
・教職課程審査の結果、「教育課程総論」「総合的な学習の時間の指導法」「特別活動の指導法」「教育の方法及び技術」に兼任講師を新たに配置した。
また、「進路指導及びキャリア教育の理論と方法」は他の兼任講師とのオムニバスとした。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
10 名	5 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
11	4	2	0	17	5	10	4	0	0	14	5
(10)	(3)	(0)	(0)	(13)	(3)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
11	4	2	0	17	5	11	4	2	0	17	5
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	6 名	8 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{17}{17} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{6}{14} = \boxed{42.85} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{5}{5} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由		
		該当なし							
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)
該当なし	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
		該当なし							
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)
該当なし	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)				
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)
該当なし	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{17} = 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
該当なし	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
<p>認可時 (令和元年)</p>	<p>・設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。</p>	<p>高知学園大学は、高等教育・研究機関として「世界の平和と友愛」という建学の精神の下、教育・研究活動を通して、人々の健康と幸福に寄与するという使命を帯びている。従って、本学の設置の趣旨に示すように「県民の健康を支える人材づくりに貢献すると共に、進展する医療システムに対応できる人間性や専門的知識を身に付けた専門的職業人の養成」にある。このため、設置計画を着実に履行することに特に留意する。</p> <p>また、教育の充実と共にそれを支える研究活動にさらなる活性化を図る必要がある。そのため、本年度より教員には向後3年間の内に明確な成果をあげるため、年度当初に研究活動計画書を提出し、年度末には研究活動の成果を示す報告書を提出することを義務付けた。</p> <p>さらに、FD活動、SD活動及び自己点検評価活動を有機的に機能させることにより、教育・研究活動の向上を図る。また、これらのPDCAサイクルを継続的に回すことにより、本学の教育・研究活動を着実に向上させる。</p>	<p>研究については、全教員から提出された研究活動計画書を基に、本学の研究動向の把握に努めるとともに、資金的、物的及び人的支援の在り方について検討を始める。さらに、本学の特質である分野の多様性を生かした学際的研究の実施を検討し、全学的なスケールでの学科横断的なテーマによる研究の企画・立案を推進する。そのために、短期大学及び大学の教員を研究分担者とし、学長を研究代表者として共通テーマの下で科研費を申請するなどを検討する。</p> <p>教育については、完成年度を見越して学科ごとに定めているアセスメント・ポリシーに基づいた授業レベル、教育課程レベル及び大学レベルの三つのレベルで教育効果を評価するアセスメントプランを作成し、教育の効果をモニターする。さらに、その成果をFD活動及びSD活動にフィードバックすることにより、FD及びSD委員会が中心となって大学全体として、教育の質を向上させるための活動に取り組む。</p>
<p>認可時 (令和元年)</p>	<p>・ディプロマ・ポリシーにおける、「食生活や食習慣の課題の改善」を身につける前に課題を把握し分析する能力も必要であるため、「課題の把握・改善」とすること。</p>	<p>ディプロマ・ポリシーについては、「食生活や食習慣の課題の改善」を身につける前に課題を把握し分析する能力も必要であることを学科共通の認識とし、それを踏まえて管理栄養学科のディプロマ・ポリシーの第2項を次のように改めた。(下線部分を追加)</p> <p>(旧) 2 人々の食生活や食習慣に関する課題の改善に取り組む主体性及び多様な人々に対応できるコミュニケーション能力を身につけた者。</p> <p>(新) 2 人々の食生活や食習慣に関する課題の把握・改善に取り組む主体性及び多様な人々に対応できるコミュニケーション能力を身につけた者。</p> <p>(別添資料①)</p>	<p>履行済</p>
<p>認可時 (令和元年)</p>	<p>・校舎の整備計画について、遅滞なく着実に実施するとともに、既設の短期大学の教育研究に支障がないよう適切に対応すること。</p>	<p>校舎の整備計画に沿って、本学の校舎については、新たに8号館を建設し、また、既設の建物も改修工事を行い令和2年2月末までに全ての工事を完了し引き渡しを終えている。</p> <p>これらの工事により、研究室については、新設の大学及び既設の短期大学ともに講師以上の教員に研究室が個室として確保され、また、ゼミ室の大幅な増設、実験・実習室の新設及び改修により、大学にふさわしい教育とともに、十分な研究活動が可能な環境を整備することができた。</p>	<p>履行済</p>

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和元年)	・ 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	遵守事項 本校法人の教員の定年規定は、職位によらず一律65歳である。管理栄養学科においては、完成年度にその定年を越えている教員数は17名中8名である。定年を越える教員については、再雇用制度を適用して完成年度まで専任教員として雇用できることとしている。後任の補充については、公募や他大学の推薦等のあらゆる手段を講じて若返りを図りたい。	履行中 完成年度に定年あるいは再雇用の期限を迎える教員については、早期から（遅くとも前々年度から）設置基準を踏まえつつ、各学科における分野毎の年齢及び職位の構成を考慮して、後任の新規採用を計画的に実施していく。
認 可 時 (令和元年)	・ 学生確保の分析データを踏まえると、県内の志願者が必ずしも十分とは言えないため、学生確保を充実させる観点から、県内に留まらず広報活動の充実が望ましい。	助言事項 今年度の志願者数は管理栄養学科では77名であり、定員の1.1倍であった。しかし、入学者数は54名と定員70名を下回る結果となった。 本学では、設置認可申請が承認後、ホームページ、募集要項の送付及びファックス送信などを介した入学試験に関する県外の高等学校への情報提供に加えて、事務局に配置した志願者募集担当者が愛媛県29校、徳島県14校及び香川県12校の高等学校の進路指導担当者とコンタクトを取るなどとして、本学として県外からの志願者獲得に努力した。しかし、11月11日以降の入学試験となり、県内の高校生の確保が不十分で、県外への流出を許すこととなった。 令和3年度は早期に県内外の広報活動を行い、学生の確保に努める。	履行中 今年度においては、以下のような取り組みを展開することとした。 ・ 従来行っている高知県内の高等学校進路担当者向け説明会（会場は県内3カ所）やオープンキャンパスを実施する。また、管理栄養学科の教育研究内容に沿った地域活動として開催する公開イベントなどを通して大学の認知度を高め、ブランディング化を図っていくなど、県内の募集活動をより充実したものとする。 ・ 四国内の高知県以外の3県の高等学校については、昨年度に志願者のあった高校を中心に、高校の進路指導担当教員とコンタクトをとり、訪問して進路指導の状況について情報収集をするとともに、各県で開催される進路相談会等にも積極的に参加する。 ・ 本年度入試においては、従来からの入試方法に加えて、AO入試及び大学入学共通テストの活用（昨年度既に申込済み）することにより、入試方法をさらに多様化する。このような本学における多様な入試方法の活用については、ホームページ及び募集要項等による広報だけでなく、入試広報用電子媒体の作成と配布等を検討し、県内外の高等学校の進路指導担当者及び受験生に広報・周知し、多様な能力と個性をもった県内外の志願者を募る。

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘**を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<健康科学部 管理栄養学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 高知学園大学では、ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会とスタッフ・ディベロップメント（SD）委員会を設置している。なお、重要議題を総合的に検討する場合は、合同会議を開催することとしている。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会は各学科を代表する教員、スタッフ・ディベロップメント（SD）委員会は、事務職員の代表として各課長・係長、そして教員との協働体制を確立するため、学生部長、教務部長も委員として出席する。FD、SD委員会とも平均すれば月1回程度の開催となり、委員はほぼ全員が出席している。</p> <p>c 委員会の審議事項等 FD委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・FD活動の企画、実施計画の立案に関すること。 ・FD活動の評価に関すること。 ・FD活動に関する情報の収集と提供に関すること。 ・その他FD活動に関すること。 SD委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・SD活動の企画、実施計画の立案に関すること。 ・SD活動の評価に関すること。 ・SD活動に関する情報の収集と提供に関すること。 ・その他SD活動に関すること。 </p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員を対象にしたFD・SDに関する学内研修会 ・教員相互の授業参観と事後検討会 ・授業参観から発見した改善点を実施する公開授業と事後検討会 ・学生による授業アンケート実施と教員による自己分析の報告 ・FD・SD活動研究発表会の開催 ・学外研修会参加に関する報告会 ・FD・SD活動報告書の刊行 等 </p>
--

b 実施方法

「教職員を対象にしたFD・SDに関する学内研修会」については、学外講師を招いた研修会を開催する。新任教員に対しては、新採者オリエンテーションの中でFD活動の方針を説明し、意義の理解を深める。

また、「教員相互の授業参観と事後検討会」では、前期と後期で授業参観として公開する授業を指定し、学科を超えて教職員が当該授業を参観する機会を設ける。授業終了後は事後検討会を開催し、相互の教育実践力向上に努める。

「授業参観から発見した改善点を実施する公開授業と事後検討会」では、授業参観として公開した各教員が1年後に改善点を工夫した授業を公開する。

「学生による授業アンケート」では、各期の授業終了後に教員が退室して事務職員が受講学生へ授業アンケートへの回答を求めるようにしている。アンケートは、ポータルサイトを活用し、回答結果の集計は教務課で取りまとめる。

「FD・SD活動研究発表会の開催」については、本学教職員（非常勤講師含む）がFD活動やSD活動に関する研究発表を行うものである。

「学外研修会参加に関する報告会」は、学外で開催される研修会に出席した教職員が、その内容を報告するとともに、課題の確認と目標の共有を行う。

「FD・SD活動報告書の刊行」については、毎年度実施したFD・SD活動の記録や報告、総合的な考察をまとめ、学内外へ情報を発信する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

4月13日には令和2年度新採者オリエンテーションを実施し、該当する24名の教員全員が参加した。

なお、新型コロナウイルス感染予防対策に伴い、前期の授業参観を中止すること、状況が改善すれば後期は計画通りの授業参観を実施することとした。公開授業については、令和2年度の授業参観担当教員が、翌年度に改善点を工夫した実践を公開授業として行う予定である。以上のことから、現在はこれらの計画をまだ実施していない。

研修会については、6月23日にFD・SD研修会を開催する予定である。FD・SD活動研究発表会についても、8月開催を計画している。ただし、今後の状況によっては計画を変更することも考えられる。FD・SD活動報告書を令和2年度末に刊行する予定である。

（別添資料②、③ 委員会規程）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

令和2年4月開学であることと、新型コロナウイルス感染予防対策に伴う臨時休校を行ったため、現在はまだ授業改善の取り組みを行っていない。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各科目の授業終了後（ほとんどの科目は15回目終了後）に実施する計画である。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業アンケートの集計結果（自由記述含む）は、各担当教員へフィードバックを行う。集計結果は事務局教務課で公開し、教員も学生も閲覧することを可能とする。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制 該当なし

a 委員会の設置状況

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況 該当なし

a 審議した内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

令和2年4月、高知学園大学は、食と医療の分野から地域の健康を支援する人材を育成するために開学し、健康科学部一期生として113名が入学した。新型コロナウイルス感染予防対策のため、入学直後より臨時休校が続いたが、その間も面接授業に備えた課題研究や本学からの連絡等を通して、学生は管理栄養学科、臨床検査学科それぞれの専門分野が果たす責任感と学習意欲を高めている。今後は、「日本一の健康長寿県構想」を掲げる高知県で学習する経験を通して、健康増進と病気の予防に対応できる専門知識・技術、科学的根拠に基づく判断による実践力、健康的な生活を支援するための責任感と倫理観等を備え、多職種の専門性とその価値を尊重し、協働することのできる人材を社会へ輩出する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

毎年度、自己点検・評価報告書を作成して公表する予定である。令和2年度の自己点検・評価については、令和3年10月1日頃に公表する計画である。

b 公表方法

認証評価機関の評価基準に基づいて自己点検・評価報告書を作成し、冊子および本学ウェブサイトにて公表する。

③ 認証評価を受ける計画

完成年度以降に認証評価機関の評価を受けるべく検討する。現在、加盟する認証評価機関を検討中である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人高知学園

(2) 大学名

高知学園大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒780-0955
高知県高知市旭天神町292-26

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(キラ マサヒト) 吉良 正人 (平成26年8月)		
学長	(チカモリ ケンスケ) 近森 憲助 (令和2年4月)		
健康科学部 学部長	(チカモリ ケンスケ) 近森 憲助 (令和2年4月)		
臨床検査学 学科長	(トミナガ マリ) 富永 麻理 (令和2年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
健康科学部 臨床検査学科 学士（臨床検査学）	保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）	4年	70人	— 年次人	240人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	—人 (—) [—]	—人 (—) [—]	—人 (—) [—]	—人 (—) [—]	—人 (—) [—]	—人 (—) [—]	—人 (—) [—]	—人 (—) [—]	60人 (—) [—]	0人 (—) [—]	0.98 倍	— 倍	
志願者数	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	78 [—]	— [—]			
受験者数	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	76 [—]	— [—]			
合格者数	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	69 [—]	— [—]			
B 入学者数	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	(—) [—]	59 [—]	— [—]			
入学定員超過率 B/A	—		—		—		—		0.98				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和2年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考			
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
1年次	-	-	-	-	-	-	-	-	59	0				
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]				
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	-				
2年次	/		-	-	-	-	-	-	-	-				
			[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
3年次	/		/		-	-	-	-	-	-				
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]		
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)		
4年次	/		/		/		-	-	-	-				
							[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
							(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	-	-	-	-	-	-	-	59						
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]					
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)					

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
平成29年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
平成30年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	59 人	0 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{59} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

卒業要件及び履修方法

卒業要件単位 130単位

- ①教養・基礎科目は、14科目20単位が必修、選択科目より8単位以上、合計28単位以上を修得する。
- ②専門基礎科目は、17科目28単位が必修、選択科目より4単位以上、合計32単位以上を修得する。
- ③専門科目は、33科目64単位が必修、選択科目より6単位以上、合計70単位以上を修得する。
- ④卒業要件単位数は合計130単位以上を修得する。

(履修科目の登録の上限：48単位(年間))

卒業要件及び履修方法

卒業要件単位 130単位

- ①教養・基礎科目は、14科目20単位が必修、選択科目より8単位以上、合計28単位以上を修得する。
- ②専門基礎科目は、17科目28単位が必修、選択科目より4単位以上、合計32単位以上を修得する。
- ③専門科目は、33科目64単位が必修、選択科目より6単位以上、合計70単位以上を修得する。
- ④卒業要件単位数は合計130単位以上を修得する。

(履修科目の登録の上限：48単位(年間))

- (注)
- ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

特になし。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
64 科目	49 科目	0 科目	113 科目	64 科目 [0]	49 科目 [0]	0 科目 [0]	113 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目 (該当なし)

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目 (該当なし)

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

(該当なし)

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{0}{113} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	校舎敷地・その他：高知学園短期大学（必要面積4,600㎡）と共有 運動場用地：高知リハビリテーション専門職大学及び高知学園短期大学と共用		
	校舎敷地	0 ㎡	17,841.48 ㎡	0 ㎡	17,841.48 ㎡			
	運動場用地	0 ㎡	25,297.30 ㎡	0 ㎡	25,297.30 ㎡			
	小 計	0 ㎡	43,138.78 ㎡	0 ㎡	43,138.78 ㎡			
	そ の 他	0 ㎡	6,169.97 ㎡	0 ㎡	6,169.97 ㎡			
	合 計	0 ㎡	49,308.75 ㎡	0 ㎡	49,308.75 ㎡			
(2) 校 舎		専 用 4,406.42 ㎡ (4,406.42 ㎡)	共 用 8,734.09 ㎡ (8,734.09 ㎡)	共用する他の学校等の専用 4,207.75 ㎡ (4,207.75 ㎡)	計 17,348.26 ㎡ (17,348.26 ㎡)	高知学園短期大学(必要面積5,500㎡)と共用		
(3) 教 室 等	講 義 室 28 室	演 習 室 13 室	実験実習室 21 室	情報処理学習施設 2 室 (補助職員 0 人)	語学学習施設 0 室 (補助職員 0 人)	(講義室、情報処理学習施設は高知学園短期大学と共用)		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称 健康科学部 臨床検査学科			室 数 21 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
	健康科学部 臨床検査学科	11,420 [380] (11,020 [300])	1,279 [1,264] (1,279 [1,264])	1,262 [1,262] (1,262 [1,262])	85 (79)	885 (868)	15 (8)	
	計	11,420 [380] (11,020 [300])	1,279 [1,264] (1,279 [1,264])	1,262 [1,262] (1,262 [1,262])	85 (79)	885 (868)	15 (8)	
(6) 図 書 館	面 積 974.00 ㎡		閱 覧 座 席 数 134	収 納 可 能 冊 数 117630 冊				
(7) 体 育 館	面 積 3,543.00 ㎡		体育館以外のスポーツ施設の概要 テニスコート (3面)		1,815.00 ㎡			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	252千円	252千円	図書購入費	4,500千円	1,150千円	1,150千円
	共同研究費等	80千円	80千円	設備購入費	52,000千円	30,000千円	0千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,520千円	1,300千円	1,300千円	1,300千円	—千円	—千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		補助金収入、資産運用収入、手数料収入、雑収入 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	高知学園大学										備考
大学の名称	高知学園大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
健康科学部											
管理栄養学科	4	70	-	280	学士(栄養学)	0.77	0.77	-	令和2	高知県高知市旭天神町292-26	
臨床検査学科	4	60	-	240	学士(臨床検査学)	0.98	0.98	-	令和2	同上	
大学全体	-	130	-	520	-	0.87	0.87	-	令和2	-	

大学の名称	高知リハビリテーション専門職大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
リハビリテーション学部											
リハビリテーション学科	4	150	-	600	-	0.83	0.79	-	平成31	高知県土佐市高岡町乙1139-3	
理学療法専攻	4	70	-	280	理学療法学士(専門職)	0.92	0.90	-	平成31	同上	
作業療法専攻	4	40	-	160	作業療法学士(専門職)	0.76	0.67	-	平成31	同上	
言語聴覚専攻	4	40	-	160	言語聴覚学士(専門職)	0.75	0.72	-	平成31	同上	
大学全体	4	150	-	600	-	0.83	0.79	-	-	-	

大学の名称	高知学園短期大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
生活科学学科	2	-	-	80	短期大学士(生活科学)	0.58	-	-	平成17	高知県高知市旭天神町292-26	令和2年4月募集停止
幼児保育学科	2	80	-	160	短期大学士(幼児保育学)	0.98	1.00	-	平成17	同上	
医療衛生学科											
医療検査専攻	3	-	-	80	短期大学士(●●学)	1.11	-	-	平成18	同上	令和2年4月募集停止
歯科衛生専攻	3	-	-	80	短期大学士(歯科衛生学)	0.81	-	-	平成18	同上	令和2年4月募集停止
歯科衛生学科	3	40	-	120	短期大学士(歯科衛生学)	0.98	0.98	-	令和2	同上	令和2年4月学科名称変更
看護学科	3	60	-	180	短期大学士(看護学)	1.12	1.12	-	平成20	同上	
大学全体	-	180	-	700	-	0.99	1.03	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<健康科学部 臨床検査学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専任	教授	高岡 榮二 (66) <令和2年4月> 修士(理学)	専任	教授	高岡 榮二 (66) <令和2年4月> 修士(理学)
		血液学 地域医療概論※ 総合臨床検査学※ 血液検査学Ⅰ(疾患と検査) 血液検査学Ⅱ(機器とデータ解析)※ 血液検査学実習 輸血・移植検査学実習 遺伝子・染色体検査学実習 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究			血液学 地域医療概論※ 総合臨床検査学※ 血液検査学Ⅰ(疾患と検査) 血液検査学Ⅱ(機器とデータ解析)※ 血液検査学実習 輸血・移植検査学実習 遺伝子・染色体検査学実習 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究
専任	教授	今井 正 (69) <令和2年4月> 博士(医学)	専任	教授	今井 正 (69) <令和2年4月> 博士(医学)
		生理学 医療工学実習 総合臨床検査学※ 生理機能検査学Ⅰ(基礎)※ 生理機能検査学Ⅱ(臨床)※ 生理機能検査学実習 画像検査学実習 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究			生理学 医療工学実習 総合臨床検査学※ 生理機能検査学Ⅰ(基礎)※ 生理機能検査学Ⅱ(臨床)※ 生理機能検査学実習 画像検査学実習 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究
専任	教授	富永 麻理 (63) <令和2年4月> 医学博士	専任	教授	富永 麻理 (63) <令和2年4月> 医学博士
		生化学Ⅰ(物質生化学) 生化学Ⅱ(代謝生化学) 生化学実習 地域医療概論※ 総合臨床検査学※ 臨床化学Ⅰ(基礎)※ 臨床化学Ⅱ(臨床応用)※ 臨床化学実習 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究			生化学Ⅰ(物質生化学) 生化学Ⅱ(代謝生化学) 生化学実習 地域医療概論※ 総合臨床検査学※ 臨床化学Ⅰ(基礎)※ 臨床化学Ⅱ(臨床応用)※ 臨床化学実習 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究
専任	教授	松崎 茂展 (66) <令和2年4月> 博士(医学)	専任	教授	松崎 茂展 (66) <令和2年4月> 博士(医学)
		遺伝学 微生物学 チーム医療概論※ 総合臨床検査学※ 臨床検査学基礎実習※ 微生物検査学実習 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 卒業研究			遺伝学 微生物学 チーム医療概論※ 総合臨床検査学※ 臨床検査学基礎実習※ 微生物検査学実習 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 卒業研究
専任	教授	佐藤 進一郎 (62) <令和3年4月> 博士(医学)	専任	教授	佐藤 進一郎 (61) <令和3年4月> 博士(医学)
		免疫学※ 総合臨床検査学※ 血液検査学Ⅱ(機器とデータ解析)※ 血液検査学実習 免疫検査学※ 免疫検査学実習 輸血・移植検査学 輸血・移植検査学実習 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究			免疫学※ 総合臨床検査学※ 血液検査学Ⅱ(機器とデータ解析)※ 血液検査学実習 免疫検査学※ 免疫検査学実習 輸血・移植検査学 輸血・移植検査学実習 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究
専任	教授	奥宮 敏可 (61) <令和3年4月> 博士(医学)	専任	教授	奥宮 敏可 (60) <令和3年4月> 博士(医学)
		総合臨床検査学※ 臨床化学Ⅰ(基礎)※ 臨床化学Ⅱ(臨床応用)※ 臨床化学実習 遺伝子・染色体検査学 遺伝子・染色体検査学実習 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究			総合臨床検査学※ 臨床化学Ⅰ(基礎)※ 臨床化学Ⅱ(臨床応用)※ 臨床化学実習 遺伝子・染色体検査学 遺伝子・染色体検査学実習 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究
専任	教授	是永 正敬 (66) <令和2年4月> 医学博士	専任	教授	是永 正敬 (66) <令和2年4月> 医学博士
		地域医療概論※ 公衆衛生学実習 総合臨床検査学※ 医動物学 臨床検査総論実習 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 卒業研究			地域医療概論※ 公衆衛生学実習 総合臨床検査学※ 医動物学 臨床検査総論実習 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 卒業研究
専任	教授	森本 徳仁 (49) <令和2年4月> 博士(医学)	専任	教授	森本 徳仁 (49) <令和2年4月> 博士(医学)
		総合臨床検査学※ 臨床検査総論※ 臨床検査総論実習 微生物検査学 微生物検査学実習 総合臨床検査セミナー※ 医療安全管理学演習※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究			総合臨床検査学※ 臨床検査総論※ 臨床検査総論実習 微生物検査学 微生物検査学実習 総合臨床検査セミナー※ 医療安全管理学演習※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	山中 茂雄 (60) <令和2年4月> 博士(医学)	専	教授	山中 茂雄 (60) <令和2年4月> 博士(医学)
		<ul style="list-style-type: none"> チーム医療概論※ 総合臨床検査学※ 臨床検査学基礎実習※ 臨床化学実習 検査管理総論 検査管理学実習 検査管理学特論 総合臨床検査セミナー※ 医療安全管理学実習※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究 			<ul style="list-style-type: none"> チーム医療概論※ 総合臨床検査学※ 臨床検査学基礎実習※ 臨床化学実習 検査管理総論 検査管理学実習 検査管理学特論 総合臨床検査セミナー※ 医療安全管理学実習※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究
専	教授	村上 雅尚 (47) <令和2年4月> 博士(生命科学)	専	教授	村上 雅尚 (47) <令和2年4月> 博士(生命科学)
		<ul style="list-style-type: none"> 生物学概論 細胞分子生物学 医学英語特論 総合臨床検査学※ 微生物検査学実習 遺伝子・染色体検査学実習 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究 			<ul style="list-style-type: none"> 生物学概論 細胞分子生物学 医学英語特論 総合臨床検査学※ 微生物検査学実習 遺伝子・染色体検査学実習 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究
専	准教授	森田 尚亨 (63) <平令和2年4月> 修士(理学)	専	准教授	森田 尚亨 (63) <平令和2年4月> 修士(理学)
		<ul style="list-style-type: none"> チーム医療概論※ 地域医療概論※ 医療工学概論 医療工学実習 総合臨床検査学※ 放射性同位元素検査学 画像検査学※ 画像検査学実習 画像検査学特論※ 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究 			<ul style="list-style-type: none"> チーム医療概論※ 地域医療概論※ 医療工学概論 医療工学実習 総合臨床検査学※ 放射性同位元素検査学 画像検査学※ 画像検査学実習 画像検査学特論※ 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究
専	准教授	三木 友香理 (43) <平令和2年4月> 博士(保健学)	専	准教授	三木 友香理 (43) <平令和2年4月> 博士(保健学)
		<ul style="list-style-type: none"> 解剖学実習 病理学総論 病理学各論 総合臨床検査学※ 病理検査学実習 細胞検査学 臨床検査学基礎実習※ 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究 			<ul style="list-style-type: none"> 解剖学実習 病理学総論 病理学各論 総合臨床検査学※ 病理検査学実習 細胞検査学 臨床検査学基礎実習※ 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究
専	准教授	小野川 雅英 (50) <平令和2年4月> 博士(医学)	専	准教授	小野川 雅英 (50) <平令和2年4月> 博士(医学)
		<ul style="list-style-type: none"> 健康食品総論 薬理学 チーム医療概論※ 地域医療概論※ 公衆衛生学※ 公衆衛生学実習 関係法規 医療統計学 総合臨床検査学※ 臨床検査学基礎実習※ 救急救命法 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究 			<ul style="list-style-type: none"> 健康食品総論 薬理学 チーム医療概論※ 地域医療概論※ 公衆衛生学※ 公衆衛生学実習 関係法規 医療統計学 総合臨床検査学※ 臨床検査学基礎実習※ 救急救命法 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究
専	准教授	武市 和彦 (59) <平令和2年4月> 農学士	専	准教授	武市 和彦 (59) <平令和2年4月> 農学士
		<ul style="list-style-type: none"> 免疫学※ 地域医療概論※ 総合臨床検査学※ 病理検査学実習 血液検査学実習 臨床検査総論実習 免疫検査学※ 免疫検査学実習 輸血・移植検査学実習 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究 			<ul style="list-style-type: none"> 免疫学※ 地域医療概論※ 総合臨床検査学※ 病理検査学実習 血液検査学実習 臨床検査総論実習 免疫検査学※ 免疫検査学実習 輸血・移植検査学実習 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究
専	講師	中村 泰子 (51) <令和2年4月> 修士(医科学)	専	講師	中村 泰子 (51) <令和2年4月> 修士(医科学)
		<ul style="list-style-type: none"> 地域医療概論※ 総合臨床検査学※ 救急救命法 生理機能検査学Ⅰ(基礎)※ 生理機能検査学Ⅱ(臨床)※ 生理機能検査学実習 画像検査学※ 画像検査学実習 画像検査学特論※ 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究 			<ul style="list-style-type: none"> 地域医療概論※ 総合臨床検査学※ 救急救命法 生理機能検査学Ⅰ(基礎)※ 生理機能検査学Ⅱ(臨床)※ 生理機能検査学実習 画像検査学※ 画像検査学実習 画像検査学特論※ 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※ 臨地実習 卒業研究
専	講師	片岡 佐誓 (60) <令和2年4月> 修士(理学)	専	講師	片岡 佐誓 (60) <令和2年4月> 修士(理学)
		<ul style="list-style-type: none"> 免疫検査学実習 機器分析学 臨地実習 卒業研究 			<ul style="list-style-type: none"> 免疫検査学実習 機器分析学 臨地実習 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	講師	森山 ゆり (71) <令和3年4月> 博士(生活科学)	専	講師	森山 ゆり (71) <令和3年4月> 博士(生活科学)
		公衆衛生学※ 公衆衛生学実習			公衆衛生学※ 公衆衛生学実習
専	講師	高橋 保 (68) <令和2年4月> 学士(保健衛生学)	専	講師	高橋 保 (68) <令和2年4月> 学士(保健衛生学)
		解剖学実習 病理検査学実習 臨地実習前総合演習※			解剖学実習 病理検査学実習 臨地実習前総合演習※
専	助教	松崎 梢 (38) <令和2年4月> 博士(医学)	専	助教	松崎 梢 (38) <令和2年4月> 博士(医学)
		医療工学実習 総合臨床検査学※ 臨床検査学基礎実習※ 生理機能検査学実習 総合臨床検査セミナー※			医療工学実習 総合臨床検査学※ 臨床検査学基礎実習※ 生理機能検査学実習 総合臨床検査セミナー※
専	助教	岩本 昌大 (27) <令和2年4月> 修士(保健学)	専	助教	岩本 昌大 (27) <令和2年4月> 修士(保健学)
		生化学実習 総合臨床検査学※ 臨床検査学基礎実習※ 臨床検査総論実習 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※			生化学実習 総合臨床検査学※ 臨床検査学基礎実習※ 臨床検査総論実習 総合臨床検査セミナー※ 臨地実習前総合演習※
専	講師	福永 佐枝 (50) <令和2年4月> 医科学修士	専	講師	福永 佐枝 (50) <令和2年4月> 医科学修士
		生化学実習 臨床検査学基礎実習※ 遺伝子・染色体検査学実習 臨地実習前総合演習※			生化学実習 臨床検査学基礎実習※ 遺伝子・染色体検査学実習 臨地実習前総合演習※
兼任	講師	吉村 斉 (50) <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	吉村 斉 (50) <令和2年4月> 博士(教育学)
		心理学			心理学
兼任	講師	近森 憲助 (69) <令和2年4月> 医学博士	兼任	講師	近森 憲助 (69) <令和2年4月> 医学博士
		国際文化人間論			国際文化人間論
兼任	講師	鈴木 寛之 (49) <令和2年4月> 博士(理学)	兼任	講師	鈴木 寛之 (49) <令和2年4月> 博士(理学)
		化学概論 地域医療概論※			化学概論 地域医療概論※
兼任	講師	太田 直也 (60) <令和2年4月> 文学修士	兼任	講師	太田 直也 (60) <令和2年4月> 文学修士
		英語文章表現 英語読解 英語プレゼンテーション			英語文章表現 英語読解 英語プレゼンテーション
兼任	講師	田口 尚弘 (67) <令和2年4月> 理学博士	兼任	講師	田口 尚弘 (67) <令和2年4月> 理学博士
		解剖学 解剖学実習 遺伝子・染色体検査学実習			解剖学 解剖学実習 遺伝子・染色体検査学実習
兼任	講師	渡邊 慶子 (64) <令和2年10月> 博士(生活科学)	兼任	講師	渡邊 慶子 (64) <令和2年10月> 博士(生活科学)
		チーム医療概論※ 地域医療概論※			チーム医療概論※ 地域医療概論※
兼任	講師	安房田 司郎 (73) <令和5年4月> 博士(医学)	兼任	講師	安房田 司郎 (73) <令和5年4月> 博士(医学)
		地域医療概論※ 健康栄養学概論			地域医療概論※ 健康栄養学概論
兼任	講師	古屋 美和 (49) <令和5年4月> 修士(生活科学)	兼任	講師	古屋 美和 (50) <令和5年4月> 修士(生活科学)
		地域医療概論※			地域医療概論※
兼任	講師	沼田 聡 (36) <令和5年4月> 博士(学術)	兼任	講師	沼田 聡 (36) <令和5年4月> 博士(学術)
		地域医療概論※			地域医療概論※
兼任	講師	松浦 喜美夫 (71) <令和2年4月> 医学博士	兼任	講師	松浦 喜美夫 (71) <令和2年4月> 医学博士
		医学概論 チーム医療概論※ 地域医療概論※ 臨床医学総論 臨床医学各論 臨床検査医学 病態解析学特論 総合臨床検査セミナー※			医学概論 チーム医療概論※ 地域医療概論※ 臨床医学総論 臨床医学各論 臨床検査医学 病態解析学特論 総合臨床検査セミナー※
兼任	講師	奥宮 敏可 (60) <令和2年10月> 博士(医学)	兼任	講師	奥宮 敏可 (60) <令和2年10月> 博士(医学)
		臨床検査総論※			臨床検査総論※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	来栖 正博 (34) <令和2年4月> 修士(理学)	兼任	講師	来栖 正博 (34) <令和2年4月> 修士(理学)
		情報機器の活用と発信 情報機器とプレゼンテーション 情報倫理			情報機器の活用と発信 情報機器とプレゼンテーション 情報倫理
兼任	講師	高橋 功 (78) <令和4年4月> 医学博士	兼任	講師	高橋 功 (78) <令和4年4月> 医学博士
		生命倫理学			生命倫理学
兼任	講師	浜田 幸作 (71) <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	浜田 幸作 (71) <令和2年4月> 修士(教育学)
		平和と友愛論			平和と友愛論
兼任	講師	遠山 茂樹 (51) <令和2年4月> 修士(社会学)	兼任	講師	遠山 茂樹 (51) <令和2年4月> 修士(社会学)
		社会学			社会学
兼任	講師	渡邊 富一 (64) <令和2年4月> 法学修士	兼任	講師	渡邊 富一 (64) <令和2年4月> 法学修士
		日本国憲法			日本国憲法
兼任	講師	岡村 奈緒美 (31) <令和2年10月> 修士(福祉社会学)	兼任	講師	岡村 奈緒美 (31) <令和2年10月> 修士(福祉社会学)
		社会福祉論			社会福祉論
兼任	講師	岩崎 正春 (73) <令和2年4月> 理学博士	兼任	講師	岩崎 正春 (73) <令和2年4月> 理学博士
		物理学概論			物理学概論
兼任	講師	PAULA DIAN FABIAN (62) <令和2年10月> B.L.A(英国)	兼任	講師	PAULA DIAN FABIAN (62) <令和2年10月> B.L.A(英国)
		日常英会話 医学英語演習			日常英会話 医学英語演習
兼任	講師	前田 正也 (62) <令和2年10月> 法学士	兼任	講師	前田 正也 (62) <令和2年10月> 法学士
		中国語の基礎 中国語会話			中国語の基礎 中国語会話
兼任	講師	二宮 久美 (64) <令和2年4月> 修士(学術)	兼任	講師	二宮 久美 (64) <令和2年4月> 修士(学術)
		ヒューマンコミュニケーション キャリアデザインI(基礎)			ヒューマンコミュニケーション キャリアデザインI(基礎)
兼任	講師	小島 貴子 (62) <令和3年10月> 修士(国際7+ミストレーション)	兼任	講師	小島 貴子 (62) <令和3年10月> 修士(国際7+ミストレーション)
		キャリアデザインII(応用)			キャリアデザインII(応用)
兼任	講師	山本 英作 (53) <令和2年4月> 修士(地域研究)	兼任	講師	山本 英作 (53) <令和2年4月> 修士(地域研究)
		運動と健康 生産スポーツ実技			運動と健康 生産スポーツ実技
兼任	講師	坂本 まゆみ (53) <令和2年10月> 博士(口腔保健福祉学)	兼任	講師	坂本 まゆみ (53) <令和2年10月> 博士(口腔保健福祉学)
		チーム医療概論※			チーム医療概論※
兼任	講師	矢野 智恵 (50) <令和2年10月> 修士(看護学)	兼任	講師	矢野 智恵 (50) <令和2年10月> 修士(看護学)
		チーム医療概論※			チーム医療概論※
兼任	講師	宮崎 登美子 (47) <令和2年10月> 学士(社会学)	兼任	講師	宮崎 登美子 (47) <令和2年10月> 学士(社会学)
		チーム医療概論※			チーム医療概論※
兼任	講師	森下 安子 (62) <令和4年4月> 看護学博士	兼任	講師	森下 安子 (62) <令和4年4月> 看護学博士
		地域医療概論※ 地域包括ケアシステム論			地域医療概論※ 地域包括ケアシステム論
兼任	講師	浅羽 宏一 (54) <令和5年4月> 博士(医学)	兼任	講師	浅羽 宏一 (54) <令和5年4月> 博士(医学)
		地域医療概論※			地域医療概論※
兼任	講師	久原 太助 (49) <令和4年4月> 修士(医科学)	兼任	講師	久原 太助 (49) <令和4年4月> 修士(医科学)
		医療情報学 医療情報学演習 医療検査情報システム論			医療情報学 医療情報学演習 医療検査情報システム論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	泉谷 知明 (52) <令和5年4月> 博士(医学)	兼任	講師	泉谷 知明 (52) <令和5年4月> 博士(医学)
		生殖医療概論※			生殖医療概論※
兼任	講師	津田 雅之 (49) <令和5年4月> 博士(医学)	兼任	講師	津田 雅之 (49) <令和5年4月> 博士(医学)
		生殖医療概論※			生殖医療概論※
兼任	講師	谷口 佳代 (42) <令和5年4月> 学士(医学)	兼任	講師	谷口 佳代 (42) <令和5年4月> 学士(医学)
		生殖医療概論※			生殖医療概論※
兼任	講師	都築 たまみ (37) <令和5年4月> 学士(医学)	兼任	講師	都築 たまみ (37) <令和5年4月> 学士(医学)
		生殖医療概論※			生殖医療概論※
兼任	講師	奥谷 文乃 (60) <令和4年4月> 博士(医学)	兼任	講師	奥谷 文乃 (60) <令和4年4月> 博士(医学)
		医療安全管理学演習※			医療安全管理学演習※
兼任	講師	都築 房子 (71) <令和2年4月> 教育学士	兼任	講師	都築 房子 (71) <令和2年4月> 教育学士
		美術の世界			美術の世界
兼任	講師	福井 康雄 (60) <令和2年10月> 医学博士	兼任	講師	福井 康雄 (60) <令和2年10月> 医学博士
		チーム医療概論※			チーム医療概論※
兼任	講師	竹崎 陽子 (40) <令和2年10月> 専門学校	兼任	講師	竹崎 陽子 (40) <令和2年10月> 専門学校
		チーム医療概論※			チーム医療概論※
兼任	講師	光岡 妙子 (49) <令和2年10月> 医学士	兼任	講師	光岡 妙子 (49) <令和2年10月> 医学士
		チーム医療概論※			チーム医療概論※
兼任	講師	生島 淳 (49) <令和2年10月> 修士(経営学)	兼任	講師	生島 淳 (49) <令和2年10月> 修士(経営学)
		経営学基礎			経営学基礎
兼任	講師	戸田 浩 (63) <令和2年4月> 文学士	兼任	講師	戸田 浩 (63) <令和2年4月> 文学士
		日本語文章表現 日本語読解			日本語文章表現 日本語口頭表現 日本語読解
兼任	講師	松本 優典 (63) <令和2年4月> 教育心理学士			
		日本語口頭表現			
兼任	講師	池 康晴 (63) <令和2年4月> 理学士			
		数学概論			
兼任	講師	三谷 英子 (72) <令和2年4月> 専門学校	兼任	講師	三谷 英子 (72) <令和2年4月> 専門学校
		土佐の食文化			土佐の食文化
兼任	講師	島田 郁子 (55) <令和2年10月> 博士(生活科学)	兼任	講師	島田 郁子 (55) <令和2年10月> 博士(生活科学)
		災害と生活			災害と生活
兼任	講師	隅田 和稔 (65) <令和2年10月> 博士(学術)	兼任	講師	隅田 和稔 (65) <令和2年10月> 博士(学術)
		社会とメディア			社会とメディア
兼任	講師	永島 正康 (60) <令和3年4月> Ph. D. in BusinessAdministration(仏園)	兼任	講師	永島 正康 (60) <令和3年4月> Ph. D. in BusinessAdministration(仏園)
		マーケティング論			マーケティング論
兼任	講師	三船 恒裕 (38) <令和2年10月> 博士(文学)	兼任	講師	三船 恒裕 (38) <令和2年10月> 博士(文学)
		統計学			統計学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	木下 泉 (38) <令和2年4月> 農学博士	兼任	講師	木下 泉 (38) <令和2年4月> 農学博士
		生活と環境			生活と環境
兼任	講師	宅間 一之 (85) <令和2年4月> 教育学士	兼任	講師	宅間 一之 (85) <令和2年4月> 教育学士
		土佐の歴史			土佐の歴史
兼任	講師	津野 美保 (68) <令和2年4月> 修士(学術)	兼任	講師	津野 美保 (68) <令和2年4月> 修士(学術)
		健康科学			健康科学
兼任	講師	安岡 しずか (49) <令和5年4月> 修士(看護学)	兼任	講師	安岡 しずか (49) <令和5年4月> 修士(看護学)
		地域医療概論※			地域医療概論※
			兼任	講師	寺尾 康 (61) <令和2年4月> 理学士
					数学概論

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(通年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼担教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**履可時又は届出時から変更となっている情報は赤字としてください。**
・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の誕生日**を記入してください。
・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(補)、実み)、兼担、兼任の順に記入してください。
・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

・兼任講師が都合により辞退したため、「数学概論」は兼任講師を新たに配置し、「日本語口頭表現」は他の兼任講師の担当とした。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
14 名	7 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
10	4	4	3	21	0	8	4	3	3	18	0
(8)	(4)	(3)	(3)	(18)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
10	4	4	3	21	0	10	4	4	3	21	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	5 名	8 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{21}{21} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{5}{18} = \boxed{27.77} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
該当なし	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし					
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
該当なし	人	必修	科目	必修	科目	必修	○○ 科目
		選択	科目	選択	科目	選択	○○ 科目
		自由	科目	自由	科目	自由	○○ 科目
		計	科目	計	科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)		
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
該当なし	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{21} = 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計			後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
該当なし	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼任教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画	
認可時 (令和元年)	・設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	遵守事項 高知学園大学は、高等教育・研究機関として「世界の平和と友愛」という建学の精神の下、教育・研究活動を通して、人々の健康と幸福に寄与するという使命を帯びている。従って、本学の設置の趣旨に示すように「県民の健康を支える人材づくりに貢献すると共に、進展する医療システムに対応できる人間性や専門的知識を身に付けた専門的職業人の養成」にある。このため、設置計画を着実に履行することに特に留意する。 また、教育の充実と共にそれを支える研究活動にさらなる活性化を図る必要がある。そのため、本年度より教員には向後3年間の内に明確な成果をあげるため、年度当初に研究活動計画書を提出し、年度末には研究活動の成果を示す報告書を提出することを義務付けた。 さらに、FD活動、SD活動及び自己点検評価活動を有機的に機能させることにより、教育・研究活動の向上を図る。また、これらのPDCAサイクルを継続的に回すことにより、本学の教育・研究活動を着実に向上させる。	履行中	研究については、全教員から提出された研究活動計画書を基に、本学の研究動向の把握に努めるとともに、資金的、物的及び人的支援の在り方について検討を始める。さらに、本学の特質である分野の多様性を生かした学際的研究の実施を検討し、全学的なスケールでの学科横断的なテーマによる研究の企画・立案を推進する。そのために、短期大学及び大学の教員を研究分担者とし、学長を研究代表者として共通テーマの下で科研費を申請するなどを検討する。 教育については、完成年度を見越して学科ごとに定めているアセスメント・ポリシーに基づいた授業レベル、教育課程レベル及び大学レベルの三つのレベルで教育効果を評価するアセスメントプランを作成し、教育の効果をモニターする。さらに、その成果をFD活動及びSD活動にフィードバックすることにより、FD及びSD委員会が中心となって大学全体として、教育の質を向上させるための活動に取り組む。
認可時 (令和元年)	・校舎の整備計画について、遅滞なく着実に実施するとともに、既設の短期大学の教育研究に支障がないよう適切に対応すること。	遵守事項 校舎の整備計画に沿って、本学の校舎については、新たに8号館を建設し、また、既設の建物も改修工事を行い令和2年2月末までに全ての工事を完了し引き渡しを終えている。 これらの工事により、研究室については、新設の大学及び既設の短期大学ともに講師以上の教員に研究室が個室として確保され、また、ゼミ室の大幅な増設、実験・実習室の新設及び改修により、大学にふさわしい教育とともに、十分な研究活動が可能な環境を整備することができた。	履行済	
認可時 (令和元年)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	遵守事項 本学校法人の教員の定年規定は、職位によらず一律65歳である。臨床検査学科においては、完成年度にその定年を越えている教員数は21名中8名である。定年を越える教員については、再雇用制度を適用して完成年度まで専任教員として雇用できることとしている。後任の補充については、公募や他大学の推薦等のあらゆる手段を講じて若返りを図りたい。	履行中	完成年度に定年あるいは再雇用の期限を迎える教員については、早期から（遅くとも前々年度から）設置基準を踏まえつつ、各学科における分野毎の年齢及び職位の構成を考慮して、後任の新規採用を計画的に実施していく。

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
<p>認可時 (令和元年)</p>	<p>・学生確保の分析データを踏まえると、県内の志願者が必ずしも十分とは言えないため、学生確保を充実させる観点から、県内に留まらず広報活動の充実に努めることが望ましい。</p>	<p>助言事項</p> <p>今年度の志願者数は臨床検査学科では78名であり、定員の1.3倍であった。しかし、入学者数は59名と定員60名を1名下回る結果となった。学部全体では、今年度の県外からの志願者の割合は約6% (9名/155名)であった。臨床検査学科においては、定員の1割以上が県外からの志願者によって占められていた(8名/60名)。</p> <p>本学では、設置認可申請が承認後、ホームページ、募集要項の送付及びファックス送信などを介した入学試験に関する県外の高等学校への情報提供に加えて、事務局に配置した志願者募集担当者が愛媛県29校、徳島県14校及び香川県12校の高等学校の進路指導担当者とのコンタクトを取るなどして、本学として県外からの志願者獲得に努力した。その結果、臨床検査学科の場合には、愛媛県及び徳島県から、それぞれ3名計6名の志願者(その他、東京都及び沖縄県から各1名)があった。このようなことから、県内だけにとどまらない県外からの志願者確保について、今年度にもまして注力する必要があることを痛感している。</p> <p>今年度は募集のスタートが遅れ、県内の入学者を十分に確保できなかったが、令和3年度は県内の入学者増も期待できる。</p>	<p>履行中</p> <p>今年度においては、以下のよう な取り組みを展開することとした。 ・従来行っている高知県内の高等学校進路担当者向け説明会(会場は県内3カ所)やオープンキャンパスを実施する。また、臨床検査学科の教育研究内容に沿った地域活動として開催する公開イベントなどを通して大学の認知度を高め、ブランディング化を図っていくなど、県内の募集活動をより充実したものとする。 ・四国内の高知県以外の3県の高等学校については、昨年度に志願者のあった高校を中心に、高校の進路指導担当教員とコンタクトをとり、訪問して進路指導の状況について情報収集をするとともに、各県で開催される進路相談会等にも積極的に参加する。 ・本年度入試においては、従来からの入試方法に加えて、AO入試及び大学入学共通テストの活用(昨年度既に申込済み)することにより、入試方法をさらに多様化する。このような本学における多様な入試方法の活用については、ホームページ及び募集要項等による広報だけではなく、入試広報用電子媒体の作成と配布等を検討し、県内外の高等学校の進路指導担当者及び受験生に広報・周知し、多様な能力と個性をもった県内外の志願者を募る。</p>

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<健康科学部 臨床検査学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 高知学園大学では、ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会とスタッフ・ディベロップメント（SD）委員会を設置している。なお、重要議題を総合的に検討する場合は、合同会議を開催することとしている。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会は各学科を代表する教員、スタッフ・ディベロップメント（SD）委員会は、事務職員の代表として各課長・係長、そして教員との協働体制を確立するため、学生部長、教務部長も委員として出席する。FD、SD委員会とも平均すれば月1回程度の開催となり、委員はほぼ全員が出席している。</p> <p>c 委員会の審議事項等 FD委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・FD活動の企画、実施計画の立案に関すること。 ・FD活動の評価に関すること。 ・FD活動に関する情報の収集と提供に関すること。 ・その他FD活動に関すること。 SD委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・SD活動の企画、実施計画の立案に関すること。 ・SD活動の評価に関すること。 ・SD活動に関する情報の収集と提供に関すること。 ・その他SD活動に関すること。 </p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員を対象にしたFD・SDに関する学内研修会 ・教員相互の授業参観と事後検討会 ・授業参観から発見した改善点を実施する公開授業と事後検討会 ・学生による授業アンケート実施と教員による自己分析の報告 ・FD・SD活動研究発表会の開催 ・学外研修会参加に関する報告会 ・FD・SD活動報告書の刊行 等 </p>
--

b 実施方法

「教職員を対象にしたFD・SDに関する学内研修会」については、学外講師を招いた研修会を開催する。新任教員に対しては、新採者オリエンテーションの中でFD活動の方針を説明し、意義の理解を深める。

また、「教員相互の授業参観と事後検討会」では、前期と後期で授業参観として公開する授業を指定し、学科を超えて教職員が当該授業を参観する機会を設ける。授業終了後は事後検討会を開催し、相互の教育実践力向上に努める。

「授業参観から発見した改善点を実施する公開授業と事後検討会」では、授業参観として公開した各教員が1年後に改善点を工夫した授業を公開する。

「学生による授業アンケート」では、各期の授業終了後に教員が退室して事務職員が受講学生へ授業アンケートへの回答を求めるようにしている。アンケートは、ポータルサイトを活用し、回答結果の集計は教務課で取りまとめる。

「FD・SD活動研究発表会の開催」については、本学教職員（非常勤講師含む）がFD活動やSD活動に関する研究発表を行うものである。

「学外研修会参加に関する報告会」は、学外で開催される研修会に出席した教職員が、その内容を報告するとともに、課題の確認と目標の共有を行う。

「FD・SD活動報告書の刊行」については、毎年度実施したFD・SD活動の記録や報告、総合的な考察をまとめ、学内外へ情報を発信する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

4月13日には令和2年度新採者オリエンテーションを実施し、該当する24名の教員全員が参加した。

なお、新型コロナウイルス感染予防対策に伴い、前期の授業参観を中止すること、状況が改善すれば後期は計画通りの授業参観を実施することとした。公開授業については、令和2年度の授業参観担当教員が、翌年度に改善点を工夫した実践を公開授業として行う予定である。以上のことから、現在はこれらの計画をまだ実施していない。

研修会については、6月23日にFD・SD研修会を開催する予定である。FD・SD活動研究発表会についても、8月開催を計画している。ただし、今後の状況によっては計画を変更することも考えられる。FD・SD活動報告書を令和2年度末に刊行する予定である。

（別添資料②、③ 委員会規程）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

令和2年4月開学であることと、新型コロナウイルス感染予防対策に伴う臨時休校を行ったため、現在はまだ授業改善の取り組みを行っていない。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各科目の授業終了後（ほとんどの科目は15回目終了後）に実施する計画である。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業アンケートの集計結果（自由記述含む）は、各担当教員へフィードバックを行う。集計結果は事務局教務課で公開し、教員も学生も閲覧することを可能とする。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制 該当なし

a 委員会の設置状況

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況 該当なし

a 審議した内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

令和2年4月、高知学園大学は、食と医療の分野から地域の健康を支援する人材を育成するために開学し、健康科学部一期生として113名が入学した。新型コロナウイルス感染予防対策のため、入学直後より臨時休校が続いたが、その間も面接授業に備えた課題研究や本学からの連絡等を通して、学生は管理栄養学科、臨床検査学科それぞれの専門分野が果たす責任感と学習意欲を高めている。今後は、「日本一の健康長寿県構想」を掲げる高知県で学習する経験を通して、健康増進と病気の予防に対応できる専門知識・技術、科学的根拠に基づく判断による実践力、健康的な生活を支援するための責任感と倫理観等を備え、多職種の専門性とその価値を尊重し、協働することのできる人材を社会へ輩出する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

毎年度、自己点検・評価報告書を作成して公表する予定である。令和2年度の自己点検・評価については、令和3年10月1日頃に公表する計画である。

b 公表方法

認証評価機関の評価基準に基づいて自己点検・評価報告書を作成し、冊子および本学ウェブサイトにて公表する。

③ 認証評価を受ける計画

完成年度以降に認証評価機関の評価を受けるべく検討する。現在、加盟する認証評価機関を検討中である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合 》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。